

875A-1

一 日清經濟共同委員會設置ニ關スル協定締結ノ件

一 遞信省官制中改正ノ件

極秘 昭和十年七月三日 會議筆記 正

樞密院會議筆記

一 日清經濟共同委員會設置ニ

關スル協定締結ノ件

一 遞信省官制中改正ノ件

昭和十年七月三日（水曜日）午前十時十五分開議

聖上臨御

出席員

議長

平沼副議長

大臣

岡田内閣總理大臣 四番

後藤内務大臣 六番

大角海軍大臣 七番

廣田外務大臣 八番

林陸軍大臣 九番

床次遞信大臣 十番

町田商工大臣 十二番

山崎農林大臣 十三番

兒玉拓務大臣 十六番

EXHIBIT NO. 880

875A-2

顧問官

久保田顧問官	十九番
富井顧問官	二十番
黒田顧問官	廿二番
櫻井顧問官	廿三番
荒井顧問官	廿四番
河合顧問官	廿五番
鈴木(貫太郎)顧問官	廿七番
石井顧問官	廿八番
有馬顧問官	廿九番
原顧問官	三十番
窪田顧問官	卅一番
元田顧問官	卅三番
鈴木(莊六)顧問官	卅四番
石塚顧問官	卅五番
坂本顧問官	卅六番
石渡顧問官	卅七番
清水顧問官	卅八番
藤澤顧問官	卅九番
林顧問官	四十番

閣席員

皇族

雍仁親王	一番
宣仁親王	二番
戴仁親王	三番

875A-3

大臣

高橋大藏大臣 五番
小原司法大臣 十一番
松田文部大臣 十四番
内田鐵道大臣 十五番

顧問官

金子顧問官 十八番
石黒顧問官 廿一番
石原顧問官 廿六番
栗野顧問官 卅二番

委員

金森法制局長官

樋貝法制局參事官

以上各件ニ付

川越對滿事務局次長

重光外務次官

栗山外務省作務局長

桑島外務省東亞局長

小林外務書記官

柳井外務書記官

大久保外務事務官

永田陸軍省軍務局長

平井陸軍一等主計

以上日滿經濟共同委員會設置ニ

關スル協定締結ノ件ニ付

875A-4

進藤遞信省電務局長

清水遞信省電氣局長

片岡遞信省航空局長

藤川遞信省記官

以上遞信省官制中改正ノ件ニ付

報告員

荒井審査委員長

日清經濟共同委員會設置ニ関

スル協定締結ノ件ニ付

村上書記官長

遞信省官制中改正ノ件ニ付

書記官

堀江書記官

武藤書記官

議長（一木）之ヨリ合議ヲ關ク先ヅ

日清經濟共同委員會設置ニ關スル協定締結
ノ件

ヲ議題ニ供ス第一讀合ヲ開キ朗讀ハ之ヲ省略シ
テ直ニ審査委員長ノ報告ヲ求ム

報告員（荒井）今回御諮詢ノ日清經濟共同委員會
設置ニ關スル協定締結ノ件ニ付本官等審査員ヲ
命ゼラレ本月二十七日委員會ヲ開キ國務大臣及
其關係官ノ辯明ヲ聴取シ以テ之ガ査察ヲ遂ゲタリ

875A-4

進藤遞信省電務局長

清水遞信省電氣局長

片岡遞信省航空局長

藤川遞信省書記官

以上遞信省官制中改正ノ件ニ付

報告員

荒井審査委員長

日滿經濟共同委員會設置ニ関

スル協定締結ノ件ニ付

村上書記官長

遞信省官制中改正ノ件ニ付

書記官

堀江書記官

武藤書記官

議長（一木）之ヨリ合議ヲ關ク先ヅ

日滿經濟共同委員會設置ニ關スル協定締結
ノ件

ヲ議題ニ供ス第一讀合ヲ開キ朗讀ハ之ヲ省略シ
テ直ニ審査委員長ノ報告ヲ求ム

報告員（荒井）今同御諮詢ノ日滿經濟共同委員會
設置ニ關スル協定締結ノ件ニ付本官等審査員ヲ
命ゼラレ本月二十七日委員會ヲ開キ國務大臣及
關係官ノ説明ヲ聴取シ以テ之ガ審査ヲ遂ゲタリ

875A-5

抑々帝國ノ滿洲國ニ對スル國策ノ基調トスル所
ハ發ニ昭和八年三月漢口ノ國際聯盟脫退ニ關ス
ル詔書及昭和七年九月調印ノ日滿議定書ヲ以テ
宣明セラレタルガ如ク滿洲國ノ獨立ヲ確認尊重
シ且之ヲシテ帝國ト不可分依存ノ關係ヲ持シテ
進歩發達セシムルニ在リ帝國政府異常ニ此ノ方
針ニ則リ適切ナル處置ヲ講ズルコトヲ念トシ日
滿兩國ノ連繫ヲ確保スル爲メ日滿議定書ニ於ケ
ル兩國共同シテ國家ノ防衛ニ當ルベキ旨ノ條規
ニ基キ軍事ニ關シテハ同議定書ニ依リ共同防衛
ニ必要ナル日本國軍ノ滿洲國內ニ永久駐屯ノ權
ヲ確立シタル外別ニ兩國間ニ軍事上ノ協定ヲ締
結シ又外交ニ關シテハ客年三月滿洲國帝制實施
ノ際兩國間ニ交換セル公文ニ依リ滿洲國ハ其ノ
外交其ノ他共同防衛上必要ナル事項ニ付必ズ豫
メ日本國ニ充分且隔意ナキ協議ヲ遂グベキコト
ヲ協定シタリ然ルニ軍事外交ト均シク兩國ノ連
繫ニ緊密重要ノ關係アル經濟ニ關シテハ其ノ共
同措辦ノ方法ニ付未ダ何等制度トシテ確立セル
モノナク爲メニ滿洲國ノ經濟問題ニシテ帝國ノ
經濟ニ重大ノ關係アル事項ノ處理殊ニ滿洲ニ於
ケル重要産業ヲ目的トスル日滿合辦會社ノ監督
ニ關シテモ正式ニハ帝國政府ハ發言權ヲ有セズ
之ヲ滿洲國政府ノ措置ニ一任スルノ外ナキ現狀

875A-6

ニ在リ斯クノ如キハ日滿兩國ノ不可分關係ヲ確保スル所以ニ非ズ又兩國經濟上ノ依存關係ヲ鞏固ナラシムル所以ニ非ザルコト明ニシテ兩國ノ連繫ニ關係アル限り「軍事及外交ニ關スルト同じク經濟ニ關シテモ亦共同指辨ノ方法ヲ制度ノ上ニ確定シ以テ正式ニ帝國ノ發言權ヲ存立セシムルノ必要アリ帝國政府ハ此ノ必要ニ應ズル爲メ日滿兩國間ニ一ノ共同機關ヲ設置スル旨ノ協定ヲ締結スルヲ可ナリトシ在滿帝國使臣ヲシテ滿洲國政府ト交渉セシメタルニ協議調ヒテ本件取極ノ成案ヲ得ルニ至レリ」

本案ノ取極ハ「日滿經濟共同委員會設置ニ關スル協定」ヲ主タルモノトシ之ニ添フルニ其ノ細目ヲ定メタル「附屬書」及「日滿經濟共同委員會設置ニ關スル協定」締結ニ付日本國及滿洲國全權委員ガ一致シタル了解事項」ナル文書ヲ以テス今逐次此等各部ノ要旨ヲ述ブレバ次ノ如シ

第一 協定

(一) 滿洲國新京ニ日滿經濟共同委員會ヲ常設ス

(二) 本委員會ハ日滿兩國經濟ノ連繫ニ關スル重要事項及日滿合辦特殊合社ノ業務ノ監督ニ關スル重要事項ニ付日滿兩國政府ノ諮問ニ應ジ意見ヲ答申スベキモノトシ兩國政府ハ

875A-7

此等ノ事項ニ付テハ本委員會ノ諮問ヲ經タル後
ニ非ザレバ之ヲ處理スルコトヲ得ザルモノトス
(三) 本委員會ハ必要ニ應ジ日滿兩國經濟ノ合理的の融
合ニ圖スル一切ノ事項ニ付兩國政府ニ建議スル
コトヲ得ルモノトス

(四) 本委員會ノ組織及運用ニ付テハ附増^{（五）}ノ定ムル
所ニ依ル

(五) 本協定ハ署名ノ日ヨリ之ヲ實施シ日滿兩文ヲ以
テ共ニ正文トシ其ノ間ニ解釋ヲ異ニスルトキハ
日本文ニ依リ之ヲ決スルモノトス

第二 附屬書

附屬書ハ前述ノ委員會ノ組織及運用ノ大綱ヲ定メ
タルモノニシテ(一)本委員會ノ委員ハ八名トシ兩國
政府ニ於テ各其ノ半數ヲ任命シ相互ニ之ヲ通報ス
ベク委員事故アルトキハ滿洲國駐劄日本帝國特命
全權大使ト滿洲國國務總理大臣トノ協議ニ依リ其
ノ代理者ヲ定メ又兩國政府ハ必要ニ應ジ協議ノ上
各同數ノ臨時委員ヲ任命スルコトヲ得ルモノトシ
(二)議長ハ委員中ヨリ之ヲ互選シ(每同互選)(三)本
委會ノ庶務ヲ整理セシムル爲メ幹事若干名ヲ置キ
兩國政府各其ノ同數ヲ隨員中ヨリ任命スルモノト
シ(四)本委員會ノ議事ハ過半數ヲ以テ之ヲ決シ議長

875A-7

此等ノ事項ニ付テハ本委員會ノ諮問ヲ經タル後
ニ非ザレバ之ヲ處理スルコトヲ得ザルモノトス

(三) 本委員會ハ必要ニ應ジ日滿兩國經濟ノ合理的融
合ニ關スル一切ノ事項ニ付兩國政府ニ建議スル
コトヲ得ルモノトス

(四) 本委員會ノ組織及運用ニ付テハ附^屬増^補ノ定ムル
所ニ依ル

(五) 本協定ハ署名ノ日ヨリ之ヲ實施シ日滿兩文ヲ以
テ共ニ正文トシ其ノ間ニ解釋ヲ異ニスルトキハ
日本文ニ依リ之ヲ決スルモノトス

第二 附屬章

附屬章ハ前述ノ委員會ノ組織及運用ノ大綱ヲ定メ
タルモノニシテ(一) 本委員會ノ委員ハ八名トシ兩國
政府ニ於テ各其ノ半數ヲ任命シ相互ニ之ヲ通報ス
ベク委員事故アルトキハ滿洲國駐劄日本帝國特命
全權大使ト滿洲國國務總理大臣トノ協議ニ依リ其
ノ代理者ヲ定メ又兩國政府ハ必要ニ應ジ協議ノ上

各同數ノ臨時委員ヲ任命スルコトヲ得ルモノトシ

(二) 議長ハ委員中ヨリ之ヲ互選シ(每回互選)^スト謂フ(三) 本
委會ノ庶務ヲ整理セシムル爲メ幹事若干名ヲ置キ

兩國政府各其ノ同數ヲ隨員中ヨリ任命スルモノト

シ(四) 本委員會ノ議事ハ過半數ヲ以テ之ヲ決シ議長

875A-8

ハ委員トシテ議決ニ加ハルノ外ニ可否同致ナル
トキ之ヲ決スルノ權ヲスルモノトシ^(一)委員會ノ
議事規則ハ兩國政府ノ承認ヲ經テ委員會之ヲ定
ムルモノトスルノ諸項ヲ掲ゲタリ

第三 了解事項

此ノ文書ハ前述ノ委員會ノ組織及權限ニ關シ更
ニ具體的ノ取極ヲ爲シタルモノニシテ^(一)本委員
會ノ常任委員ハ帝國側ハ山東軍參謀長、在滿大
使館專任首席參事官、山東局總長及政府ニ於テ
特ニ任命スル者一名トシ滿洲國側ハ外交部、實
業部及財政部ノ各大臣並ニ國務院總務廳長トシ
^(二)本委員會ノ諮問事項中日滿兩國經濟ノ連繫ニ
關スル重要事項トハ滿洲國政府ノ權限ニ屬スル
經濟問題ニシテ兩國經濟ノ連繫ニ關係アル難關
入及關稅ニ關スル事項並ニ重要產業ノ開發及統
制、日滿合辦特殊會社ノ設立ニ關スル法令ノ制
定及改正、投資其ノ他兩國經濟ノ連繫ニ關スル
重要事項ヲ謂フモノトス而シテ兩國經濟ノ連繫
ニ關スル重要事項ト稱スルモ日本政府ノ權限ニ
屬スルモノハ此ノ委員會ニハ諮問セザルヲ以テ
此ノ點ニ於テ滿洲國ノミヲ拘束スル片務的約定
ト爲ルモノトス^(三)同諮問事項中日滿合辦特殊會
社ノ業務ノ監督ニ關スル重要事項トハ日滿兩國
經濟ノ連繫ニ關係アル重要產業ヲ目的トシ兩國

875A-8

ハ委員トシテ議決ニ加ヘルノ外ニ可否同致ナル
トキ之ヲ決スルノ權ヲスルモノトシ^(一)委員會ノ
議事規則ハ兩國政府ノ承認ヲ經テ委員會之ヲ定
ムルモノトスルノ諸項ヲ掲ゲタリ

第三 了解事項

此ノ文書ハ前述ノ委員會ノ組織及權限ニ關シ更
ニ具體的ノ取極ヲ爲シタルモノニシテ^(一)本委員
會ノ常任委員ハ帝國側ハ山東軍參謀長、在清大
使館專任首席參事官、山東局總長及政府ニ於テ
特ニ任命スル者一名トシ清洲國側ハ外交部、實
業部及財政部ノ各大臣並ニ國務院總務廳長トシ
^(二)本委員會ノ諮問事項中日清兩國經濟ノ連繫ニ
關スル重要事項トハ清洲國政府ノ權限ニ屬スル
經濟問題ニシテ兩國經濟ノ連繫ニ關係アル輸
入及關稅ニ關スル事項並ニ重要產業ノ開發及統
制、日清合辦特殊會社ノ設立ニ關スル法令ノ制
定及改正、投資其ノ他兩國經濟ノ連繫ニ關スル
重要事項ヲ謂フモノトス而シテ兩國經濟ノ連繫
ニ關スル重要事項ト稱スルモ日本政府ノ權限ニ
屬スルモノハ此ノ委員會ニハ諮問セザルヲ以テ
此ノ點ニ於テ清洲國ノミヲ拘束スル片務的約定
ト爲ルモノトス^(三)同諮問事項中日清合辦特殊會
社ノ業務ノ監督ニ關スル重要事項トハ日清兩國
經濟ノ連繫ニ關係アル重要產業ヲ目的トシ兩國

875A-9

ノ一方ノ法律ニ依リ成立シ其ノ資本金ノ半額以上ガ地方ノ國ノ政府、臣民又ハ法人ノ出ニ係ル會社ノ定款ノ重要ナル變更、利益金處分又ハ合併及解散ノ決議ノ認可ニ關スル事項ヲ關フモノトスル旨ヲ揭ゲタリ而シテ現在ニ於テハ日本ノ國法ニ依ル合辦會社ニシテ滿洲國側ノ出資半額以上ヲ占ムルモノナシト謂フヲ以テ實際上不取極ハ此ノ點ニ於テモ滿洲國側ノミ拘束スルモノナリ此ノ如ク本文書ニハ滿洲國ノミヲ拘束スル片務的條項アルガ故ニ兩國ノ協議ニ依リ之ヲ秘密ニ付スルコトトセル旨當局ハ言明シタリ接ズルニ不件ノ取極ハ茲ニ締結セラレタル日滿議定書ノ趣旨ニ基キ日滿兩國ノ經濟上ノ依存關係ヲ永遠ニ鞏固ナラシムル目的ヲ以テ兩國間ノ重要ナル經濟問題ニ關シ充分且緊密ニ共同ノ實ヲ舉ゲテ兩國經濟ノ合理的融合ヲ實現スル爲メ日滿經濟共同委員會ナル兩國政府ノ諮問機關ヲ常設シ以テ兩國ノ經濟ニ關聯アル一定ノ重要事項ヲ處理スルニ當リ豫メ該委員會ニ諮問シ其ノ意見ヲ俟チテ之ヲ措辦セムトスルモノニシテ斯クノ如キ機關ヲ設置スルハ日滿兩國ノ特殊關係ニ考ヘ帝國ノ對滿國策ヲ遂行スルニ補スル所アルベキガ故ニ不件取極ハ其ノ大體ノ趣旨ニ於テ之ヲ可トスベク其ノ各部ノ條項モ亦特ニ非議

875 A-10

スベキ廉ヲ觀メズ唯斯カル特殊ノ施設ハ其ノ通
用宜キヲ得ルニ非ザレバ所期ノ效果ヲ齎スコト
能ハザルハ言ヲ俟タザル所ナルガ故ニ本件極
ノ實施ニ際リ當局ニ於テ最善ノ注意ヲ拂ヒ苟モ
其ノ措置ヲ謬ルコトナク以テ能ク充分ノ成績ヲ
收ムルニ至ラムコトヲ切望セザルヲ得ズ仍テ審
査委員會ニ於テハ本件ハ此ノ儘之ヲ可決セラレ
然ルベキ旨右ノ希望ト俱ニ全會一致ヲ以テ議決
シタリ

右審査ノ結果ヲ報告ス

三十三番（元田）不協定ニ依レバ委員會諮問事項

中日清合辦特殊會社ニシテ資本金ノ半額以上ガ
他方ノ讓出ニ係ルモノノ一定事項ニ付テハ必ズ
諮問セザルベカラザルコトトセルモ斯ノ如ク日
清兩國ノ出資額ヲ同様ト爲スコトハ果シテ妥當
ナリヤ

又委員會ノ組織ヲ見ルニ兩國ヨリ各四名宛ノ委
員ヲ出シ議長ハ右委員中ヨリ之ヲ互選スルモノ
トス而シテ議長ハ表決權ノ外採決權ヲ有スルモ
ノト爲スガ故ニ其ノ權限ハ非常ニ強大ナルモノ
ナリ而シテ其ノ任期ニ付テハ何等ノ規定ナシ審査報
告ニ依レバ議長ハ會議員ニ之ヲ選定ストノコト
ナルモ左様ノコトハ明規ヲ撰スベク明規無ケレ
バ疑義ヲ生ズルノ虞アリト考フ斯ル事項ハ本協

875A-11

定中ニ之ヲ明記スルヲ相當ト考フルモ議事規則
中ニ之ヲ定ムルモ亦不可ナルベシ兎ニ角本協
定ノ規定ノミニテハ委員會ノ諮問事項ハ結局議
長ノ專決スル所ト爲ルノ虞アリ此ノ點ノ條規充
分ナラズト考ヘラルルガ之ニ對スル當局ノ所見
如何

八香（廣田）元田顧問官ノ御質問ハ兩國ヨリ各四
名宛ノ委員ヲ出シテ委員會ヲ開クヲ以テ萬一議
事ガ議長ノ採決權ニ依テ決定セラルル場合ニ於テ
ハ日本側ニ不利益ヲ生ズルコトナキヤトノ疑ナ
リト解ス併シ滿洲國側ヨリ出ス四人ノ委員ノ内
三名ハ大臣ニシテ他ノ一名ハ總務廳長ナリ此ノ總
務廳長ハ日本人ニシテ將來ニ於テモ亦然リト信
ズ而シテ同廳長ハ一面ニ於テハ滿洲國ノ官吏ナ
レドモ他面ニ於テハ滿洲國指導ノ任ニ當レル中
心機關ナリ故ニ委員會ニ於テ若シ日滿兩國ノ意
見ノ對立アル場合ニ於テモ日本側ノ不利益ト爲
ルガ如キコトハ殆ド之ヲ相像スルコトヲ得ズ
議長ハ場合ニ依リ自ラ最終ノ決ヲ採ルコトアル
ベキモ其ノ地位ハ之ヲ常定ノモノト爲サザルガ
反テ適當ナラズヤト思惟シ諮問事項ノ如何ニ依
リ會議ノ都度之ヲ選定スルノ制度ト爲セリ然レ
ドモ將來議事規則ヲ定ムル場合ニ於テハ尙此ノ
點ニ關シ充分ニ考慮セザルベカラズト考ヘ居レ

875A-12

其最良ナル此ノ要員ヲ表面形式ハ日清對等ナルモ實質ニ於テハ相異ルニ由リ文書ノ解釋上多少ノ困難ノ點アラムモ實際上右ノ如キ解釋ノ下ニ之ヲ運用シタシト考フ

三十三番（元田） 本員ハ今日日清間ニ條約上ノ權利ヲ強行セザルベカラザルガ如キコトアルベシトハ思惟セズ然レドモ今日其ノ心配ナキヲ理由トシテ協定ヲ結バザルハ細心ナラズ協定ヲ結ブトセバ國家百年ノ大計上萬遺算ナキ規定ヲ設クルノ必要アリト考フ審査報告書ニ本件ノ取極ノ實施ニ應ジテハ最善ノ注意ヲ拂ヒ苟モ其ノ措置ヲ謬ルコトナク云々ト謂ヘルハ種々ノ意味ヲ包含スルモノト考フルヲ以テ當局ニ於テハ此ノ點ニ付深く考慮セラレムコトヲ希望ス

三十六番（坂本） 只今元田顧問官ヨリ御質問アリタル事柄ハ本員モ考ヘタル事ナリ外務大臣ノ御答辯ニ依レバ總務廳長ニハ日本人ガ任ゼラレ后ルヲ以テ何レ日本人ノ心ヲ以テ仕事ヲ爲スベク從テ日本ニ不利益ナルコトナカルベシトノコトナルモ同官ガ日清兩國ノ利益相反スル場合ニ於テ日本側ノ利益ヲ擁護スルトキハ清洲國民ノ反感ヲ買フニ到ルベク其ノ已ニ清洲國ノ官吏タル以上日本ノ爲メ不利ナルコトヲ爲サザルベシト考フルコトハ大ニ考慮ヲ要スベキニ非ズヤ此ノ

875A-12

其質元ニ此ノ要員ニテ表面形式ハ日清議定書ニ於テハ相異ルニ由リ文書ノ解釋上多少ノ困難ノ點アラムモ實際上右ノ如キ解釋ノ下ニ之ヲ運用シタシト考フ

三十三番（元田）本員ハ今日日清間ニ條約上ノ權利ヲ強行セザルベカラザルガ如キコトアルベシトハ思惟セズ然レドモ今日其ノ心配ナキヲ理由トシテ協定ヲ結バザルハ細心ナラズ協定ヲ結ブトセバ國家百年ノ大計上萬遺算ナキ規定ヲ設クルノ必要アリト考フ審査報告書ニ本件ノ取極ノ實施ニ關リテハ最善ノ注意ヲ拂ヒ苟モ其ノ措置ヲ謬ルコトナク云々ト謂ヘルハ種々ノ意味ヲ包含スルモノト考フルヲ以テ當局ニ於テハ此ノ點ニ付深ク考慮セラレムコトヲ希望ス

王六番（坂本）只今元田顧問官ヨリ御質問アリタル事柄ハ本員モ考ヘタル事ナリ外務大臣ノ御答辯ニ依レバ總務廳長ニハ日本人ガ任ゼラレ居ルヲ以テ何レ日本人ノ心ヲ以テ仕事ヲ爲スベク從テ日本ニ不利益ナルコトナカルベシトノコトナルモ同官ガ日清兩國ノ利益相反スル場合ニ於テ日本側ノ利益ヲ擁護スルトキハ滿洲國民ノ反感ヲ買フニ到ルベク其ノ已ニ滿洲國ノ官吏タル以上日本ノ爲メ不利ナルコトヲ爲サザルベシト考フルコトハ大ニ考慮ヲ要スベキニ非ズヤ此ノ

875A-13

點ニ關スル當局ノ御意見如何又新ル委員會ノ議
長ヲ會議毎ニ選出スル制度ハ我國ニハ尋例ナカ
ルベシト考フルガ何所ニカ新ル先例アリヤ承リ
タシ

入 君（廣田）只今ノ御質問ハ日本人ナリトスルモ
滿洲國ノ官吏タル以上ハ滿洲國ノ爲メ忠良ナル
役人トシテ盡サザルベカラザルニ由リ委員會ニ
於テ日本ノ利益ノ爲メニ裁決スルコト能ハザル
筈ナラズヤトノ御主旨ナリト解セリ總務廳長ハ
日系官吏ノ總元籍ニシテ滿洲國指導ノ爲メニ招
聘セラレ居ルモノナリ即チ滿洲國ノ官吏タルト
同時ニ日本ヨリ派遣セラレタル指導機關ナルヲ
以テ同廳長ハ職務トシテ此ノ二重ノ使命ヲ達成
セザルベカラズ日滿兩國ノ行動ニ矛盾ナキ様指
導スルコトガ其ノ本來ノ任務ナリ委員會組織ニ
於テ滿洲國側ノ委員ガ若シ特ニ惡意ヲ以テ日本
ノ不利益ヲ圖ルコトアルトキハ同廳長ハ兩國ノ
利益ニ付十分ナル考慮ヲ拂ヒテ之ニ善處スルコ
トト爲ルベシト考フ同廳長ハ新ル懸念ナキ様滿
洲國ヲ指導スルコトヲ任務トスルモノナリ

委員（栗山）議長ヲ委員中ヨリ互選スル立法例ア
リヤトノコトナルガ國際聯盟理事會ノ如キハ大
體ニ於テ議長ハ會議ノ都度委員中ヨリ互選スル
例ナリ而シテ新議長ノ選定迄ハ前議長ガ假議長

875A-14

トシテ議長ノ職ヲ行フ例ナリ本協定ニ依ル經濟
共同委員會ノ議長ニ付テモ大體同様ナルガ近ク
制定セラルベキ議事規則ニ於テハ此ノ點ニ關シ
詳細ナル規定ヲ設ケタキ考ナリ此ノ委員會ノ委
員ハ形式上日滿平等ナルガ故ニ斯ノ如ク互選ノ
形式ヲ採リタルモノナリ

三十六番(坂本)本委員會ノ場合ハ國際聯盟ノ場
合トハ異レリト考フルモ今ハ之ヲ述ベザルベシ
總務廳長ハ日系官吏中滿洲國ヲ指導スベキ權要
ノ地位ニ在ルモノナレバ間違ナシト考フトノ事
ナルモ永キ將來ニ於テハ日滿關係ノ現状ガ全ク
變化ナシトハ斷ズベカラザルニ由リ當局者ハ今
後最善ノ努力ヲ以テ大臣ノ答辯ヲ裏切ルガ如キ
コトナカラムコトヲ希望スルモノナリ

議長(一木)別ニ御發言ナキ故第二讀會以下ヲ省
略シテ直ニ採決スベシ本案賛成ノ各位ノ起立ヲ
請フ

(全員起立)

議長(一木)全會一致可決セラレタリ

○

議長(一木)次ニ

逓信省官制中改正ノ件

ヲ議題ニ供ス第一讀會ヲ開キ朗讀ヲ省略シテ直
ニ審査報告ヲ爲サシム

875A-18

第四條

委員會ハ必要ニ應ジ日清兩國經濟ノ合理的融合ニ
關スル一切ノ事項ニ付日清兩國政府ニ建議スルコ
トヲ得

第五條

委員會ノ組織及運用ニ付テハ本協定附屬掌ノ定ム
ル所ニ依ル

第六條

本協定ハ署名ノ日ヨリ實施セラルベシ
本協定ノ正文ハ日本文及漢文トシ日本文本文ト漢
文本文トノ間ニ解釋ヲ異ニスルトキハ日本文本文
ニ依リ之ヲ決ス

右證據トシテ下名ハ各本國政府ヨリ正當ノ委任ヲ受ケ本協定ニ署
名調印セリ

昭和十年 月 日即チ康德二年 月 日新京ニ於テ本協定ニ通ラ作
成ス

875A-19

附 屬 書

- 一 委員會ノ委員ハ八名トシ日清兩國政府ハ各四名ヲ任命シ相互ニ之ヲ通報スベシ委員事務アルトキハ其ノ代理者ニ付滿洲國駐劄日本帝國特命全權大使滿洲國國務總理大臣相互協議ノ上之ヲ出席セシムルコトヲ得代理者ハ委員ノ名ニ於テ其ノ職ヲ行フ
右ノ外日清兩國政府ハ必要ニ應ジ協議ノ上各同意ノ臨時委員ヲ任命スルコトヲ得
- 二 議長ハ委員中ヨリ之ヲ互選ス
- 三 委員會ニ幹事若干名ヲ置ク幹事ハ庶務ヲ整理ス
- 四 委員會ノ議事ハ過半数ヲ以テ之ヲ決ス可否同数ナルトキハ議長ノ決スル所ニ依ル議長ハ委員トシテ議決ニ加ハルコトヲ妨ゲズ
- 五 委員會ハ日清兩國政府ノ承認ヲ經テ其ノ議事規則ヲ定ム

875A-20

關於設置滿日經濟共同委員會協定

附 屬 誓

關於設置滿日經濟共同委員會協定

茲因滿洲國政府及日本國政府希望爲使滿洲國及日本國間現存之滿日兩國經濟上之依存關係永遠鞏固實現滿日兩國經濟之合理的融合

又因兩國政府認爲依據大同元年九月十五日即昭和七年九月十五日蓋印之滿洲國日本國間議定誓之主旨關於滿日兩國互相關重要經濟問題亦滿日兩國有收充分且緊密共同之實效之必要

兩國政府決定設置滿日經濟共同委員會茲協定如左

第一條

滿日經濟共同委員會設置於滿洲國新京

第二條

委員會關於滿日兩國經濟之聯繫上重要事項及滿日合辦特殊公司業務之監督上重要事項須應滿日兩國政府諮詢向兩國政府具陳其意見

第三條

滿日兩國政府關於前條事項預諮詢委員會俟有其意見之具陳後辦理之

第四條

委員會有必要時關於滿日兩國經濟之合理的融合上一切事項向滿日兩國政府建議

875A-20

關於設置滿日經濟共同委員會協定

附 屬 誓

關於設置滿日經濟共同委員會協定

茲因滿洲國政府及日本國政府希望爲使滿洲國及日本國間現存之滿日兩國經濟上之依存關係永遠鞏固實現滿日兩國經濟之合理的融合

又因兩國政府認爲依據大同元年九月十五日即昭和七年九月十五日蓋印之滿洲國日本國間議定誓之主旨關於滿日兩國互相關重要經濟問題亦滿日兩國有收充分且緊密共同之實效之必要

兩國政府決定設置滿日經濟共同委員會茲協定如左

第一條

滿日經濟共同委員會設置於滿洲國新京

第二條

委員會關於滿日兩國經濟之聯繫上重要事項及滿日合辦特殊公司業務之監督上重要事項須應滿日兩國政府諮詢向兩國政府具陳其意見

第三條

滿日兩國政府關於前條事項預諮詢委員會俟有其意見之具陳後辦理之

第四條

委員會有必要時關於滿日兩國經濟之合理的融合上一切事項向滿日兩國政府建議

875A-21

第五條

關於委員會之組織及其運用依照本協定附屬章所定辦理

第六條

本協定自簽字之日起實施之

本協定以漢文及日本文爲正文原文與日本文原文之間遇有解釋不同之處應以日本文原文爲準

爲此記名奉本國政府之正當委任將本協定簽字蓋印以昭信守

康德二年 月 日

昭和十年 月 日

於新京繕成本協定二份

875A-22

附 屬 誓

- 一 委員會委員以八名爲定數滿日兩國政府應各任命四名並互相知照委員有事故時關於其代理人得經滿洲國國務總理大臣及駐滿洲國日本帝國特命全權大使互相協議後派代理人參加該代理人以委員之名義行其職務
此外滿日兩國政府有必要時得經協議後各任命同數之臨時委員
- 二 議長由委員互選之
- 三 委員會設幹事若干名幹事整理庶務
幹事由滿日兩國政府於隨員中各任命同數
- 四 委員會議事以過半數決之可否同數時由議長決之議長不妨以委員資格加入議決
- 五 委員會經滿日兩國政府承認定其議事規則

875A-23

勅令 第 號

逓信省官制中左ノ通改正ス

第二條中「登記官ハ十七人」ヲ「登記官ハ十八人」ニ改ム

第七條中「逓信省事務官専任十六人」ヲ「逓信省事務官専任十七人」ニ改ム

第七條ノ二中「航空官専任十一人」ヲ「航空官専任十二人」ニ改ム

第八條中「技師六十七人」ヲ「技師六十九人」ニ改ム

第九條中「局ハ専任三百十八人」ヲ「局ハ専任三百四十五人」ニ改ム

第十條中「技手百二十九人」ヲ「技手百四十四人」ニ改ム

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

875A-24

證 明 書

ワシントン公文書局 第 〇
國 際 檢 察 部 第 八 七 五 號

典據及ビ公正ニ關スル證明

余、神保シュウソイハ余ガ下記ノ資格ニ於テ、
即チ樞密院議長經任トシテ、日本政府ト公的關係
ニ在ルモノナルコト、竝ニ該官吏トシテ余ガ茲ニ
添附セラレタル、頁ヨリ成ル、千九百三十
五年ノ昭和十年ノ七月三日附、下記題名、即チ
日滿經濟共同委員會設置ニ關スル協定締結ノ件ノ
文書ノ保管ニ任ジ居ルコトラ茲ニ證明ス。

余ハ更ニ添附ノ記録及ビ文書ガ日本政府ノ公文
書ナルコト、竝ニ右ガ下記名稱ノ省又ハ部局ノ公
式書類及ビ綴ノ一部ナルコトラ證明ス。(若シア
ラバ綴番號又ハ引用、其他公式書類又ハ綴ニ於ケ
ル該文書ノ成規所在ノ公式名稱ヲモ特記スベシ)

875A-25

宮城內樞密院

千九百四十六年／昭和二十一年／本七月十日

東京ニ於テ署名

當該官吏署名欄

右ノ者ノ公的資格

證人

神保シユウゾー(SHUNO)

樞密院議長秘書

長會我部キチ(KICHEI)

公式入手ニ關スル證明

余、エドワード・ビー・モナガン、余ガ聯合
國最高指揮官總司令部ニ關係アルモノナルコト、
竝ニ上記題名ノ文書ハ余ガ公務上、日本政府ノ上
記署名官吏ヨリ入手シタルモノナルコトヲ茲ニ證
明ス。

千九百四十六年／昭和二十一年／本七月十日

東京ニ於テ署名

氏名欄

右ノ者ノ公的資格

證人

エドワード・ビー・モナガン

國庫検査部調査官

ウキリヤム・シー・ブラウト